

# 国際博覧会大阪誘致構想検討会まとめイメージ（案）

～いただいた様々な意見、検討会で報告した各種情報・調査内容等を整理～

## 1 開催の必要性

### ○検討の背景

- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続いて、大阪で国際博覧会を開催することは、誘致の段階から、大阪の魅力を世界へ発信し、国内外から新たな観光客やビジネスマンを呼び込めるなど、大きな意義がある一方、様々な課題があると考えられる。
- ・大阪府は、国際博覧会の大阪開催を誘致する場合の課題や対応策等について幅広く検討するため、行政、経済界、有識者による国際博覧会大阪誘致構想検討会を平成27年4月に設置。計4回開催し、国際博覧会大阪誘致の可能性について、様々な視点から検討を行ったもの。 など

### ○委員意見

- ・大阪の将来に向けて、様々なプロジェクトがある中で、なぜ万博なのかを示していただかないと賛同を得られないのではないか。
- ・少子高齢化の中で、あらゆる方が豊かに生活できる空間や人間同士の心がつながる社会など、大阪から新しい生活が提案できるようなものに期待。
- ・経済界としては、万博開催後の効果も含めて、経済活動の追い風となるようなグランドデザインがあり、その中に万博を位置づけることによって、より経済活動の主体者が参加しやすくなると思うので、そういう視点も含めて、検討することが必要。 など

## 2 開催意義・テーマ

### ○B I Eにおけるテーマの考え方

- ・「115回B I E総会決議」により、近年の国際博覧会が大きく転換。これからの国際博覧会のテーマは、「現代社会の要請にこたえる今日的なテーマ」を有することや、「自然環境保護の必要性から諸問題を浮き彫りにするものであること」などが決議された。
- ・「国威発揚型」、「開発型」の博覧会ではなく、「人類共通の課題の解決策を提示する理念提唱型」の博覧会として、地球規模の課題をテーマとして提示し、世界中の国々から知恵が集まり、その解決の方向を示す場となることを掲げて開催することが求められている。
- ・21世紀になってからの国際博覧会のテーマ「自然」、「水」、「都市」、「海」、「食料」、「エネルギー」、「つなぐ」といった世界共通の課題となるキーワードが設定されている。

### ○世界的課題の現状と大阪・関西が課題解決に貢献できる

#### 可能性の検討（委託調査中間報告）

- ・世界的な課題と日本・大阪の関わり、関西・大阪の強み等の分析を実施し、分野ごとに関連するテーマを例示 など

※ 中間報告資料  
から図等を引用

### ○有識者委員のプレゼンテーションで提示された主な意見

- ・世界規模の人口爆発や超高齢化社会がもたらす諸課題等を踏まえ、1970年の大阪万博の理念を継承し、2005年の愛地球博を発展継承させるような国際博覧会を2020年代の新しいモデルとすべき。
- ・国威発揚、科学振興、経済発展の大阪万博が残した課題は「調和」。地域振興の「引き金」ではなく「追い風」としての博覧会開催を。例えば、「人類の長寿と調和」など。
- ・経済や社会の質が大きく変化している中で、新しい未来社会像をトータルで具体的に提示できる能力を有するのは日本。「楽しいエージレス社会」というテーマで発信し、年齢に関係なく社会に関わり合い、充実したコミュニケーションができる社会像を提案するのはどうか。
- ・生命科学や気候変動などのほか、異文化理解や共生といった文化も含めた人間の生きる環境について、「いのち／L I F E」の問題として考えるべき。民の都として日本中の多様な声を巻き込み、「対話」の実体験を積み重ねる場としての21世紀型の新しいスタイルを提案したい。
- ・昨年、愛媛県、広島県とともに、豊かな地域づくりのためのイベントを実施。市民の方々は楽しい、美しい、ワクワク感がないと参加しない。国際博覧会も「地域住民の主体性をつくる場」にできないか。 など

### ○「愛知万博の意義と評価」 ゲストスピーカー宮本武史氏

- ・愛・地球博は、21世紀の新しい万博の雛形として、地球規模の問題解決に向けてのメッセージを伝える場を実現。開催を通じて、知名度の向上、市民を中心とした新しい社会システムの定着、博覧会を支えた地元企業の貴重な経験など、数字に表れない地元への効果があった。
- ・愛知万博の場合は、経済産業省と愛知県が同時に言い出したといわれている。国と愛知県での2つの動きが合わさり、「一緒にやろう」となったのが1988年頃からである。

### ○委員意見

- ・開催の意義が変わってきたといいながら、国際博覧会はこのからの可能性を示すショーケース的役割を果たすものであり、次世代の人材育成の場でもある
- ・開催意義などを具体化していくスキームなどで、地域の主体的な参加や対話、あるいは調和や連携といったものをどういう形で打ち出せるかということも共感と共鳴を得る大きな要素のひとつとなると思うので、こうした点もあわせて考えることが必要。 など

## 3 開催による効果

### ○国際博覧会大阪開催による経済効果検討（委託調査中間報告）

- ・愛・地球博相当の万博を開催した場合の経済効果を「標準試算」として実施
- ・大阪府の地域経済構造を特化係数と影響力係数による分析結果を活用して、間接効果を含めた効果を「オプション試算」として実施

#### 愛知万博並みの建設投資を行った場合（官民により1,780億円）

- ①会場運営・消費支出需要で6,910億円の誘発（投資額の約3.9倍）
- ②府域で約1.1兆円の波及効果（投資額の約6.3倍）
- ③間接効果（関連産業商品の普及、観光客の増加に伴う消費増等）を含めて、府域で約2.9兆円の波及効果

### ○委員意見

- ・経済効果もわかるが、大阪府民が賛同し、感動をもたらすような意義やテーマを深くまとめていく必要があるのではないか。博覧会を通じて、世の中を変える、驚きを与えるようなものでないと難しいのではないか。
- ・国際博覧会開催による腹の足し（経済効果）のほか、どのように持続させるのか、レガシーをどうするかも考える必要がある。
- ・日常性を突き抜けるようなワクワク感があるならいいかもしれないが、理念だけではなかなか難しい。資金、国の支援、府の覚悟、開催効果など、フィージビリティを総合的に検討すべき。 など

## 4 開催可能地区

### ○開催可能地区調査結果（委託調査中間報告より）

### ○委員意見

## 5 府民・企業意識

### ○府民・企業意識調査結果（委託調査中間報告より）

### ○委員意見

## 6 その他

### ○立候補をめぐる海外国・都市の状況

- ・国際博覧会の方向性が大きく転換した2005年愛知万博以降は、複数の国が立候補し、それぞれテーマを掲げて、誘致活動を展開。BIE加盟国の投票により、開催国が決定されている。
- ・2025年国際博覧会／オランダ（ロッテルダム）、フランス（パリ）など複数都市で2025年開催への立候補が検討。 など

### ○有識者等ヒアリングでの意見

- ・万博会場として、更地にして新しい場所をつくるという方法は、古い。今あるものを活かし、世界中からそれをみたくて人が集まるようなものを、万博を通じてつくり、あとにつなげる。こうした取組みは、「大阪の都市戦略」であり、こうした取組みは万博という枠組みを付けられない場合でも展開はできる。
- ・大阪はゲートウェイとしての役割を果たす。関西は、バラエティーとダイバーシティに富んでいる。それを最大限にうまく使う。そうすれば、ファンを増やせる。
- ・70年万博の時には、堺屋太一氏も梅棹忠夫氏も若かった。若い人たちを、万博を通じて、企画に参加させ、リーダーシップを発揮させることで、大阪で人材が育つ。 など